

外組八十七組之内

才六

琵琶香	高麗香
烟麩香	三種香
二炷香	十一炷香
二組同香	貢香
風雅香	八卦香

多 9  
1338  
41





門 9  
冊 1338  
卷 41



外組香八十七組之內才六

琵琶香

高麗香

煙競香

三種香

二炷十炷香

十一炷香

二組同香

真香

風雅香

八卦香



風韻香

人佳香

一盤同香

一頁香

一盤下香

十一致香

一盤香

三盤香

一盤香

一盤香

收盤香八寸盤五寸六

琵琶香

香四種

濟陽香

三包係肉一包試

江月香

左同以

琵琶香

二包係女試



曲調にて 一色と伝へん

右試香二種ありて 澤陽江月琵琶の  
三色と取打交柱あり 澤合名乗紙に  
書付ありて 此分先記録に事あり 扱録し

澤陽江月琵琶曲調の四色と打交柱出

其初日公今在乗紙書付ありて  
之並る裏と記しつゝの息あり 名乗紙に  
此名目ありて 心海の四柱斗の事

澤陽と 主人と書

江月と 舟と書



琵琶色々

絃々書

曲調々

調々書

又々試の香三種よりすゝる人も待と  
一句記録の異子書其下は流々多々人  
の名来々書但々試香三種より琵琶

曲調の香々詩句左のニキ

潯陽江頭夜送客

行紀錄の面々可考なるニキ

潯陽

江月

琵琶色

曲調

潯陽香々記

出香名来

江月

琵琶色

潯陽

重州客

琵琶色

江月

潯陽

曲調



名

潯陽琵琶江月

舟  
絃主人  
調

三

名

江月琵琶潯陽

絃  
舟主人  
調

全

名

潯陽琵琶江月

絃  
主人  
調

二

潯陽江頭夜送客

名

文  
有  
名  
公

名

何  
有  
名  
公

月  
日

江  
月  
日  
月  
日



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

高麗香

香九種

一 色袋内一包試

二 右同

三 右同



波くく

三色徳文試

笛くく

二色徳文試

右試香三種終る先一二三二色了

三色徳文柱出き試合へれ出る一色

又一二三と三色徳文内一色除く波の

香一色くく柱出き試合へれ出る一色

波笛の四色と徳文一色除き三色柱出

き波くく徳文試合へれ出る一色

波の香ゆき試合へれ出る二色後と一色

了る笛と二色了る一色



歌一首書年 左の巻

波のきたりてきくそまゆの住のたの  
けりてけぬくさるるものま

ち江の面よりきく 左の巻

高麗香之化

一三二 二二波 浪留留

札

二三一 二二浪 留留浪

五

札

一三二 二二波 浪留留

全

波のきたりてきくそまゆの住のたの  
けりてけぬくさるるものま

月日

出香名集

きくさるるものま



烟競香

香四種

培菓一 四色一 德内一 色試一

炭菓一 右同一

海一 二色德一 色試一

全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全



山々

右同り

先師子 塩蔵方 炭蔵方 人叔を合て  
守年 試おしや 海山をいり内一色除  
残三包と 塩蔵 炭蔵の上包と多九包  
とて 塩出多量 試の合 二粒出ると

塩蔵方その 千笑は浦の昔 炭蔵方その  
小野山と書付出ると 一粒の才の 塩蔵方その  
海と書付 炭蔵方その 山と書付出ると  
海と書付 山と書付 南と書付 二粒  
と一粒を知ると 山と書付 炭蔵方その



後集方終る時を歌一首記の事  
左の事 孫厚の文字書ふ及歌  
知る事

春よつたに花くしき方山  
夏をるるを捨る所の事

宗室方終る時を同所左の歌と書

すむはり年の事もきたはれぬ  
わづらわねのつま木

又双方持よりなる時を一首二行  
書年 又我方の香と他の香と  
よはる星一つ付る春香と他の香と  
星二つ付るは式を古記左の事



烟競香之記

炭海山 炭山 炭

炭産方

炭海山 炭山 炭

炭海山 炭山 炭

星貞一七

星貞三四

炭産方

炭海山 炭山 炭

炭海山 炭山 炭

全

点七

まきやぶの年のまき... 何れかぬ  
しつりやぶのしつり木...

月日

山香 名乗

二層の方より... 田舎の... 二層の方より



まゝに  
准る

三種香

香三種

一

三包後

二

右同

三

右同



右出香九色お交内より三色にすなり

同香別香とゆふ定まり香の園を書付

出まなり同香の梅はくを付ておき

なり三種より同香とすなり **四**かゝるなり

出まなり二種より別香とすなり **三**かゝるなり

出まなり 出左のなり

**三** 緑樹の林 **四** 洋家の梅

**四** 危死の香 **四** 故郷の香

**三** 現今の香

右の内よりつらつらと書一つを筆で思ひ書



谷々々書付出まふ年 行記の西まへ

往く可まへ 左のこまへ

三種香之記

田 尾花のまへ

名 田 孤年の堂

二

名 田 隋家の梅

二

月日

出香名乗

まろくまを唯まふ

全三と申す



二炷十炷香

香五種

丁

二包保子儀

二

右同以

二

右同以



四して

右回り

五して

右回り

右を儀より十柱香よりなる一のれ  
折下其後一の息出さ付そとす折  
外のれと入る付ら南にさすそとす

此く今半肝象ありに録の面々  
左のこより又金のくは巨敷十と書あり

二柱十柱香之儀

二五一五二四三三

札

一三二二四四五

十



柜

一二三三四四五

六

月日

出香名乘

记录之十

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



十一炷香

香六種

一包係內一包試

二包係內試

右同以



四

右同り

五

右同り

六

右同り

右一の香一包試して残十包と左の通

七

一二三三四五

五試はす但ち後々打交洗を

洗ひ減り一二三四五と香付とさるる扱

一の試はす本香一番り順々桂也を

年十試はす初りの香



試して是を本香一番目の内一種  
の内の香より二の札抄別香  
はもと三の札抄年一いつまはみ  
其外皆同く可考れの表

常の香一表一枚 二枚 三枚  
四枚 五枚 各一枚より  
可考たの香一

十一炷香記

二 一 二 三 四 五 四 三 二

此の香は  
凡月日何人の多  
ヨル



札名 札名 札名

二一 二二三 二一  
二二三 二三四 二一  
二三四 二四五 二一  
二四五 二五六 二一  
二五六 二五七 二一  
二五七 二五八 二一  
二五八 二五九 二一  
二五九 二六〇 二一

四 全 六

月日 出香名乘

記録之

香

同香

一

二

三

四

五

六



二組同香

香四種

一

三色保生紙

二

右同紙

三

右同紙







左より右へ後をとりて左へ時をとりし  
 記録は二枚重の上巻きと今度の  
 二組の式と同くはなす一組後巻き如し  
 先一組の記録上巻き出さず一組角付  
 互見合ふなり又殆ど一組を記録す

一組を札とす那を札紙の面とす  
 左の面一組の記録とす

二組同番記

ウニ三一ニ一ニ一ニ一ニ一ニ一

名 一ニ二ニ三ニ四ニ 二



名 一ニシ一ニシニウ一ニシ 四

名 一ニシウニウニウニウニ 八

右、う准 後の凡録左のセー

二組同香記

香銘

三ニウ一ニニニニ一ニ

札名 三 一ウ一ニニニ三一 五

札名 一 二ニウニニ一ニニ 二

札名 三 二ウ一ニニニ一ニ 十

月日 出香名乗

まろくくし 准きん



真香

香四種

山

三色徳内一包試

里

右同り

海

右同り



今  
二色徳

右試香經年本香八色折交炷也  
二炷了其名目一了記多  
一炷以中  
南中上之  
不為不苦名目在乃  
一炷  
一炷  
一炷

山人の東雲 山里の嵐

山海の朝日 里人の録

里山の花園 里海の真砂

海人の舟 海山の夕日

海果の渾火 人山の炭竈



人里ハ 常盤 人海ハ 塩竈  
 山々ハ 鹿 里々ハ 市  
 海々ハ 浪 人々ハ 寿  
 右の名目より書多し 行記録の面より  
 可考 左の之を

眞香記  
山 海 里 山 人

名 嵐 浪 花園 寿 全  
 名 浪 寿 四

月日 出香名集

元禄時ハ元禄五月初三完後記以て完キ事申シ記



きくくきく 咽ききき

真香

風雅香

香六種

一 二 三 四 五 六

右六色の香の内より二色と  
二色と一色と試みる 誦四色ハ



一包つゝ、惣之、試に紙より中へ  
先試香二種、紙へ出香六包、打交  
焼出年、試中なる香を、何柱目とく  
出るとり、事下、中定、名目と名乗  
紙に書付、紙を金へ打て、試に、香

三柱目と六柱目と、出るとり、中より、打て  
予、紙へ、書付、出るとり、先、三番、六  
番、紙へ、打て、紙へ、余、紙へ、打て  
名目、左の、紙へ、打て、紙へ、打て  
一、打て、紙へ、二、打て、紙へ、三、打て、紙へ



四多之字 五たを字 六祝字

又記録本香の所々一二三四五六

と傳ふに 出た香た字を付るに場不

合して一二の遠りれを不商可字

行記録の四々 准名有字

手立記とありし

風雅香之記

一二三四五六

名 かま之字 たて

名 けま之字 けま

全

月日

出香名来



九録乞子准之

八卦香

香四種

一 香 二 包 德 氏 氏

二 香 右 同 以

三 香 右 同 以



各一て 一包息成

右一試七包とヤ支内一包除き残る

六包と煙出まじり 同香の別香を

すく名来紙の八卦を書付出まじり

但二煙了り 一晝つりる たる

一二同香のまじり 別香を

一かの〜書み 三四〜一〜五文

〜一〜空三〜り〜る〜り位下

上八卦と作らるる 是易の法なり卦

たの〜



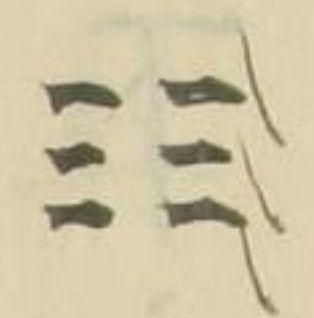




八卦香之記

二  
三

名



坤

亨

名



艮

利

月日

出香名衆

斗一斗日准を分



八卦香文記

三三

三三

出香石

出香石

利

利



